授業方法について独自に工夫していること　【教育科学系】
・どの授業においても、学生に資料を配布するだけでなく、授業内容に関係する映像や実践的研究を紹介し、学習内容の定着を図った。 ・毎時間、エクササイズあるいはグループディスカッションを取り入れ、机間巡視や各グループの意見聴き取りを実施した。
毎回授業の中で，小課題（レポート）を出して，出席をとっている。
受講生が講義に対して受け身にならないように，ワーク課題等を導入して，できるだけ主体的に取り組めるように配慮した。
・事例紹介などを通して，受講生が実践的な考え方に触れる機会を持てるように心がけている。 ・小説に描かれた児童生徒の姿から，学校適応を巡る現代的課題，教師に求められるかかわりについて考えを深めることができるように工夫している。 ・適宜，受講生相互のディスカッションの時間を設けている。
・授業内容を自身の実践を基にパワーポイントで作成し、プレゼンしている。 ・座席は指定し、その座席でグループを作らせるようにしている。私語の防止と偏りのない仲間づくりのため。 ・講義では、聞かせるだけでなく、指名発言させたり、大学探検、生活科の教材づくりのためなどでフィールドワークさせたりしている。また、学生にはフィールドワークで収集した情報をグループごとに整理させ、プレゼンとして発表させている。 ・学校現場で役立つように、学習指導案を作成させたり、模擬授業もグループ毎にさせたりしている。模擬授業については、質疑応答などで討議させ、必ず自他ともに発表から何を学んだか振り返りカードに書かせるようにしている。 ・講義形式の授業の後は、次時に小テストを行ったり、レポートで考察させるようにしている。 ・筆記試験の際、大学からのアンケートだけでなく、試験問題の最後に学生自身の学びの成果と課題を書かせ、本講義に対する感想や要望を書かせるようにしている。これらを自身の授業改善に役立てようと考えている。
ありふれた工夫だが以下のことを心がけている。 ・コメントペーパーにより学生の意見を拾い、有益と思われる意見は次回の授業時に印刷・配布する。 ・講義中もできるだけ問いの投げかけと机間巡視を行い、学生に意見を発表してもらう。 ・ペアワークやグループワークを取り入れる。
１５回の授業内容がバラバラにならないように、一つのテーマを複数回で学んでいく構成にしている。前回の授業内容が今回の授業内容にも出てくる、という構成にしていくことで、重要な内容を単発の授業で覚えて終わり･･･ということにならないように心がけている。 また、教科外活動という特質上、小グループの活動をほぼ毎回取り入れるようにしている。必ず全員が発言し、レスポンスするように、討議するテーマについての内容をプリントに書き込み、考えを整理させた上で、グループ討論の時間を設定する。
道徳が教科化される観点から、実践的に全員模擬授業に参加してもらい、道徳教育の意味、授業の進め方、子どもの道徳性の発達的特徴を理解しそれに基づく指導などについて考えてもらうようにした。特に、後半の模擬授業に関しては小学校で行っている実践例をビデオによって紹介した。その上で数名から成るグループを形成し、教材の作成と指導案の作成を行い、一班45分による全員参加の模擬授業を実施し、終了後学生間の意見交換や教員からの講評を入れることによって、より具体的実践的な理解を深めるように配慮した。

・生徒指導・進路指導について，これまでの学習内容を現場でどのように活かしていけるのかを考えられるような内容にしました。
・できる限り，映像や話し合いを取り入れ，実践の場面をイメージできるようにしました。
・グループディスカッションを複数回実施することを通じて，多様な価値観に触れ，自身の視野を広げたり，議論することの意味を体感できるよう工夫しました。

座席指定、３～４人でいろいろな学生と話し合いができるように、毎時間座席を変えている。
・学校現場での経験を生かした話を取り入れている。
・毎回プリントを用意し、出席チェックを兼ねながら提出させている。学生の感想や意見などに対し、必ずコメントを書いて次時に返却している。
・学習指導要領の内容を理解をしてもらうために、資料を通して考えさせている。
・授業の始めに、季節を感じる話題を取り入れている。
・学生の感想や疑問の中で共通理解したい事柄については、次時の授業の導入時にコメントしている。
・指導案作成には、5時間使って段階的に書かせている。
・授業の最後には、生き方を考えさせる映像を取り入れている。

教職の意義や教員の役割、職務内容を養護教諭に特化して知識・理解を修得していただきたいことから、具体的なイメージを提供することに努めた。開講時に学生自身が持っているイメージを確認してもらった。VTR視聴や現場（小・中・高・特別支援学校）の養護教諭の講話を取り入れ直接話すことができる機会の提供、ロール・プレイングなど具体的で身近に養護教諭像を掴めるように努めた。養護教諭は幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等校種の異なる学校等に勤務するため様々なニーズがあることと、教員として又養護教諭としての基礎基本の役割とを総合的に理解する意欲が喚起できればと考えた。

① 視聴覚教材を可能な限り取り入れていること
この授業は、１年生を対象にした「教職に関する科目」であるため、教師の日常生活の様子、教師という仕事のやりがいや大変さなどをわかりやすく伝えられるよう、ドキュメンタリーなどの一部を流すようにしている。
② コメントカードのフィードバックをしていること
学生たちには各回の終了時に、授業の内容に関わる課題について考えたことや話し合った結果などを整理し、コメントカードを書いてもらっている。次回の授業開始時に、その結果や共有したい意見等をあげるようにしている。

授業では、講義中心の授業ばかりにならないように、課題についてグループでの話し合いを行い、意見交流をするようにした。また、一部ではあるが、課題を提示し、調べ学習をさせるよう工夫した。

映画，TV番組，マンガ，音楽，絵画資料など，様々なメディアを使用して教師について考察した。「教師とは？」と直接考えることが困難なためであり，教師のブーメラン効果によって，自分に突き刺さってくる授業題目なので結果的にこうなったともいえる。

・演習を中心とした授業展開を行い、個人活動およびグループ活動を通して学生自らが考え、実践するによって授業内容について理解できるように配慮した
・「遊び」の形態を伴う活動により、保育へ応用しやすいよう配慮した・授業の事前準備および振り返りの課題により、授業内容の定着を図った

グループディスカッションを取り入れているが、苦手とする学生が多くいるので、準備ができるように次の授業で話し合う事柄を事前に伝えた。

ただ単に，知識の伝達だけではなく，アクティブラーニングを取り入れ，学生の主体的な参加で成り立つような授業構成にしている。また，受講者が教育実習前なので，学生同士が，模擬授業とそれに対するアドバイスを行うような授業展開をしている。

公立幼稚園での実習を組み入れています。履修学生全員が，年少児・年中児・年長児全てのクラスにおいて，子どもと遊びを通して学べることは，当該授業の特徴です。開講時期は1年の後期ですが，今後，本格的な実習に臨む前に，子どもと触れ合い，子どもの姿を実感できることは，学生にとって必要な経験だと思っています。

① 視聴覚教材を可能な限り取り入れていること
この授業は、1年生を対象にした「教職に関する科目」であるため、教師の日常生活の様子、教師という仕事のやりがいや大変さなどをわかりやすく伝えられるよう、ドキュメンタリーなどの一部を流すようにしている。
② コメントカードのフィードバックをしていること
学生たちには各回の終了時に、授業の内容に関わる課題について考えたことや話し合った結果などを整理し、コメントカードを書いてもらっている。次回の授業開始時に、その結果や共有したい意見等をあげるようにしている。

授業スタート時に行うアンケート結果から、学生の生活科の教科についての認識が個々によって様々である。小学校で実際に経験した「遊んでいるみたいで、楽しかった」「外での活動が多くて、勉強みたいじゃなくて生活科は好きだった」というものが多く、中には生活科がどんな教科だったか忘れてしまったとか、何かを作って食べたから家庭科と思い込んでその違いはなんですか？と質問してきた学生もいた。低学年1，2年生の教科なので当然の結果ではあるかもしれないが、学生には、小学校での生活科の重要な役割について理解してほしいと考える。生活科は教科であるから、ねらいもあり内容もある。学習指導要領にある理解だけではなく、生活科の特性をより具体的に学生自身が理解できるように、体験や実際の現場での授業の様子をたくさん見ることができる授業を行っている。体験を通し、教師の立場と子供の立場で考えを深め、納得した理解を目指している。また、現場での授業のビデオ視聴は、実際の生活科の授業の様子や、授業から見える子供の変容や成長の過程を子供の言葉や記録から、わかりやすく解説している。

・学年の違いを意識し、理論と実践のバランスを考えている。
・講義と活動のバランスを考えている。
・適宜、生活科の授業の写真、DVD等の視聴覚教材を使用し、実際の授業をイメージしやすいようにしている。
・単元の構想、授業の展開、教材研究、指導や支援の仕方を、受講生自らの体験活動を通して習得できるように努めている。また、自ら探究と協同するために、個人だけでなくグループの活動も積極的に取り入れた。

オリエンテーションを含め，毎回の授業で全15回の流れを示し，各回の位置づけを示している。また，各回の内容について構造的に表したものを使いながら，1時間の流れを説明してから授業に入っている。
　講義の内容に関しては毎回スライドの出力を配布し，スライドを書き写すといった手の運動はせず，講義の要点や例えとしてあげた事柄を書き取ることで深い理解を行うよう求めている。
　講義の最後には振り返りシートの提出を求めているが，単なる感想は受け付けず，講義を聴きながら一歩進んで考えたことや，発展的な疑問として浮かんだことを書くよう求めている，特に，講義が聴き終わってから思考をはじめることを戒めている。また，講義の内容について思考を求める課題を出し，回答を求めるようにしている。

・自身の実体験による事例（小中学校の生徒指導・教育相談・スクールカウンセラー）をシラバス内容にそって紹介し、「予防・開発的な生徒指導」に効果のあるコミュニケーションスキルの演習を二人組、四人組で毎回、20分ぐらい行った。（教育カウンセリング、構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキル、アサーショントレーニング　など）
・「五感で学ぶ」ことをめざし、言語、非言語的コミュニケーションを駆使してお互いの自尊感情が高まるエクササイズを実践した。
・受講生の科の教育現場における特性を活かした「関わり方」を常に意識しながら具体的な事例をもとにチーム支援の方法、あり方を考えた。
・子どもたちを取り巻く教育環境、背景にある家族の現状をふまえた適切な対応の育成をめざして「教育」に関わる新聞記事を毎回紹介した。

・受講する科の学生の特性をふまえて教育現場にたった時を想定して、学級経営に役立つコミュニケーションスキルを毎回20分程度、演習として行った。 ・シラバス内容に副って自身の実体験による事例を多々とりいれ、また「予防・開発的な生徒指導」として効果のある教育カウンセリングの手法をとりあげた。 ・学生自身の自尊感情が高まるよう「五感で学ぶ」ことをキーワードとして「傾聴」をベースに、「教師自身」のメンタルが大切なことを感情体験によって習得する場を設けた。
・教育現場に実際にたった時を常に想定しながら、毎回、学級づくりに役立つコミュニケーションスキルを演習で行った。「五感で学ぶ」をモットーに二人組、四人組の対話を重視し学生自身の自尊感情が高まる感情体験の場を設定し、学力保障は成長保障と補完しあって教育効果があがることを体験的に学ばせた。 ・シラバス内容に関連した、課題（小論文）を、数回提出。 ・「教育」に関わる最新の新聞記事を毎回紹介した。 ・DVD（1986年　学校）を視聴させ、「教師の使命」「生きがい」「幸福とは」「関わり」などをキーワードとして理想の教師像に迫り、小論文を課題とした。　　ほか
1年生対象の授業なので、取り組みやすく達成感を味わえるような授業内容や課題になるように心がけている。 具体的には、一人ずつ人前で立って絵本を読み聞かせること、次にはセリフなどを覚えて自分が作成したパネルシアターを人前で演じることなど、保育者への実践力育成の第1ステップであることを学生自らが自覚し取り組めるようにしている。人前で演じたものに対しては、受講生同士で褒めたり助言したりすることを通して、仲間として力量を高められるように工夫している。また、言葉の発達理論においても、絶えず実践力を育成する観点から具体例を多く取り入れるようにしている。
毎回，ひとつのテーマを設定してグループで集団討議を行った。また授業後にはコメントを書かせ，複数のコメントは板書のコピーとともに次回の授業時に配布した。
・毎回、ミニッツペーパーを書かせ、次回授業のときに復習を兼ねて8人程度取り上げ、全体で質問等を共有している。 ・PPTのスライドに、教員採用試験も意識して「まとめ」の部分をつくり、復習として学生自身に穴埋めを回答させている。 ・現職教員に対してインタビューをしてレポートを作成し、共有している。 ・アクティブラーニングとして、ワールド・カフェとOSTの手法を用いて、15回中2回ほど議論・発表をさせている。 ・レポートは、評価をつけて全員に返却しており、希望者については詳細なコメントをつけている。 ・視覚的理解させるため、映像資料を多く用いている。
・毎回、ミニッツペーパーを書かせ、次回授業のときに復習を兼ねて8人程度取り上げ、全体で質問等を共有している。 ・PPTのスライドに、教員採用試験も意識して「まとめ」の部分をつくり、復習として学生自身に穴埋めを回答させている。 ・問題解決型生徒指導や進路相談に関するロール・プレイを3回ほど実施している。 ・アクティブラーニングとして、OSTの手法を用いて、15回中１回ほど議論・発表をさせている。 ・レポートは、評価をつけて全員に返却しており、希望者については詳細なコメントをつけている。 ・視覚的理解させるため、映像資料を多く用いている。

・毎回、ミニッツペーパーを書かせ、次回授業のときに復習を兼ねて8人程度取り上げ、全体で質問等を共有している。
・PPTのスライドに、教員採用試験も意識して「まとめ」の部分をつくり、復習として学生自身に穴埋めを回答させている。
・学級活動・ホームルーム活動の指導計画をグループで立てさせ、模擬授業と相互評価を行っている。
・模擬遠足の指導計画を立てさせ、プレゼンテーションをさせた後に、学外にて実際に活動を行わせている。
・視覚的理解させるため、映像資料を多く用いている。

今回出された成績について　【教育科学系】
レポート2回（25点×2）と試験（50点）で評価している。レポートについては、書き方がわかっていない学生が多く、特に1回目の評価がどうしても低くなる（コメントをつけて返すことで、2回目は改善される）。書き方指導をしたいと思うが、授業の趣旨からして適切でなく、断念している。初年次演習における習得を期待したい。試験に関しては、「まとめ」の部分から穴埋め方式で出題している。出題範囲が明確なため平均点が高く、今のような暗記型の試験でよいのか、今後再検討していきたい。
レポート1回（20点）と小レポート4回（30点）、試験（50点）で評価している。小レポートに関しては回数が多かったせいか出し忘れが多く、一部の学生の成績低下につながった。今後、「まなびネット」等を使って告知することも考えたい。試験に関しては、記述による用語説明を求めたが、「まとめ」の部分から穴埋め方式で出題したため平均点は高かった。ただし、ごく一部ではあるが、得点が6割に満たず単位取得に至らなかった受講者もいた。アンケートの自由記述には「他の科目のように穴埋めにしてほしい」という意見もあったが、科目によって評価方法が異なるのは当然のことであり、変更は考えていない。
・どの科目も「教員とのコミュニケーション不足」が一定の割合で挙げられており、200名教室および60名教室でのやりとりが課題である。 ・「生徒の指導と相談B」においては前回の反省を踏まえ、授業内容を7割程度に調整し扱うトピックスを絞った。教員の心理的・時間的ゆとりも得られ、教師・学生間、あるいは学生間のコミュニケーションも増加したためか、授業評価が改善された。
受講態度は良く，全体的に良い成績を出すことができた。
全体的に受講態度は良く，比較的良い成績を出せたが，数人の学生の理解が不十分であった。
受講態度は良く，全体的に良い成績を出すことができた。
今回の学業成績については，試験・提出物・出席状況等を総合して評価した。 学業成績は，試験の結果だけでなく，課題レポートや出席状況・日頃の受講態度なども加味して，総合的に評価していくことが必要である。
複数の観点から総合的に評価した。
授業の初めに評価内容と評価方法を学生に明示するようにしている。それに基づき、公正かつバランスよく、学生一人一人の学習姿勢や学習成果が反映されるよう評価している。
おおむね良好な結果が出ているので、引き続き講義の水準を維持していきたい。
問1(この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた)、問5(多様な考え方ができるようになった)など学生にとっての学びを扱ったものであり9割以上の学生は成果があると答えており、授業内容が伝わっていると考える。しかし、問6(教員の話し方は聞き取りやすい)、問7(教員の説明はわかりやすい)についてはそのように思っている学生は6割から7割であり、講義のプレゼンについては改善の余地が多く残る結果である。また、子どもの道徳性とその発達について心理学的視点に基づく説明は少々専門用語も入り、理解しづらい面もあると思われるので、より具体的な例をあげながら理解を更に図るように進めて行きたいと考える。
・小レポート，最終課題ともに，よく考え・勉強されていたと感じました。 ・ケースディスカッションの事前学習については，人によって取り組みに温度差があったように感じます。 ・講義内で取り上げた内容を覚えるだけにとどまらず，講義をきっかけに自信で学びを拡げ，深めてもらえるとさらに良いと思います。

結果的にSとAが多くなってしまったが、ほとんどの学生が毎回出席をし、授業にもまじめに受け、課題に取り組んでいたので、妥当といえる。
私の話し方が悪く、学生さんに申し訳なかったと思います。授業には熱心に参加してくれていますが、興味関心を高める授業を提供できていませんでした。
おおむね授業態度はよく、最終試験についてもそれぞれ準備をして臨んだ様子をうかがうことができた。
全般にわたって「そう思う」という回答が多いので、よかったと思う。課題としては、学生の皆さんが授業で提示された課題について調べる回数をもっと多くした方がよかったと考える。
OBとして，後輩を厳しく査定するのには，抵抗がある。もちろん，甘くしつけているわけではないが，全体にまじめであり，そこそこの成績で提出している。
・学生の受講態度は概ね良好であったと考える ・活動や課題への取り組みに際して、学生の意欲や積極性の差が発表および作品、レポートの質などに影響したと考える
1限の学生さんは理系，2限の学生さんは文系専攻で，自然科学系の学生さんにも，もっとがんばってもらいたいです。
学生の思いを知ることができ，有り難く思います。
おおむね授業態度はよく、最終試験についてもそれぞれ準備をして臨んだ様子をうかがうことができた。
わずか16回の授業であるが、学生が、少しでも生活科に対する新たな考え、教科としての意義を理解できるように、これからも、努力していきたいと思っている。
・成績をつけるにあたっては、毎回のコメントシートによる授業内容の理解度と学びの視点の幅、深さ、演習への参加姿勢、数回の小論文、冬季課題、定期試験を点数化し、総合的に判断し評価した。 ・授業の回数がすすむごとにコメントシートに記述される内容に、人間的な成長がみられた。授業における演習の対話の雰囲気が和やかで受容と共感的理科にあふれ、一つの学級の様相がみられた。 ・コメントシートの記述が、回を重ねるごとに理解度が深まり、優れた表現力、また筆力説得力もあり、問題意識のあるものには、加点をした。将来の活躍を願い期待するものである。
全体として、おおむね良い評価を受けたと感じる。
授業での積極性，コメントにより総合的に評価した。
レポート2回（25点×2）と試験（50点）で評価している。レポートについては、書き方がわかっていない学生が多く、特に1回目の評価がどうしても低くなる（コメントをつけて返すことで、2回目は改善される）。書き方指導をしたいと思うが、授業の趣旨からして適切でなく、断念している。初年次演習における習得を期待したい。試験に関しては、「まとめ」の部分から穴埋め方式で出題している。出題範囲が明確なため平均点が高く、今のような暗記型の試験でよいのか、今後再検討していきたい。

レポート1回（20点）と小レポート4回（30点）、試験（50点）で評価している。小レポートに関しては回数が多かったせいか出し忘れが多く、一部の学生の成績低下につながった。今後、「まなびネット」等を使って告知することも考えたい。試験に関しては、記述による用語説明を求めたが、「まとめ」の部分から穴埋め方式で出題したため平均点は高かった。ただし、ごく一部ではあるが、得点が6割に満たず単位取得に至らなかった受講者もいた。アンケートの自由記述には「他の科目のように穴埋めにしてほしい」という意見もあったが、科目によって評価方法が異なるのは当然のことであり、変更は考えていない。
授業内での活動と提出物（50点）と試験（50点）で評価している。グループで指導計画を準備して模擬授業を行って、それを相互評価する活動が中心になるため、当日に欠席したり、それによって提出物が出せなかったりすると、どうしても評価が低くなる。アンケートで「提出物の出し方を工夫してほしい」という自由記述もあったので、今後は「まなびネット」の利用などを検討したい。試験に関しては、これまで穴埋め問題だけだったが、今年から新たに記述問題を追加した。平均点は例年通り高かったので、しばらくこの方式でやってみたい。

アンケート結果を受けて改善したいところ　【教育科学系】
「問4　授業で習得したことがらについて、自らの表現で伝えることができる」について、「強く・ややそう思う」が50%程度に留まっている。今後、もう少しアウトプットの時間を増やしたい。 「問9　教員とのコミュニケーションはうまくとれている」の部分について、「強く・ややそう思う」が50%程度に留まっている。ミニッツペーパーだけの間接的なコミュニケーションだけでなく、授業中の指名をもっと増やしたい。 「1回の授業に対する内容が多すぎて、時間内に終わることができず、残念だったこともある」という自由記述があったが、確かに数回そういったことがあった。時間内に内容を十分消化できるように、授業設計の際に配慮したい。
「問7　教員の説明はわかりやすい」について、「どちらともいえない」が約30%あり、他の担当教科に比べても高い(「強く・ややそう思う」は60%)。授業内容を詰め込みすぎたことが原因であると思われる。実際、「問12　一回当たりで扱われる授業の量」で「多い」と回答した学生が25%もいた。生徒指導と進路指導を15コマで扱うには時間が足りず、内容削減は容易ではないが、今後思い切って精選し、スリム化に努めたい。 「問9　教員とのコミュニケーションはうまくとれている」の部分について、「強く・ややそう思う」が50%程度に留まっている。60人授業なので1人1人と丁寧に関わることは容易でないが、授業中の指名を増やす、グループワークの際の机間指導を充実させるなどして、さらなる改善を目指したい。
「問3　授業を…文献やインターネットなどで調査し、新たな思考を展開した。さらにその思考に基づき行動した」で「どちらともいえない」が約50%に達していた。授業外でのグループワークが多い科目だけに、正直なところ意外であった。学生が既存の知識のみで課題に臨んでいる可能性があり、今後は有効な文献やリソースを積極的に紹介していきたい。 「問13　この授業のための週当たりの学習時間」が「なし」の学生が3割弱ほどいた。前述のように授業外での課題は少なくないが、大半がグループ単位での活動のため、一部のメンバーのみが熱心に取り組み、ほとんどコミットメントしていない学生がいると推察される。今後は、主体的かつ積極的な参加を全ての受講者に促すとともに、「フリーライダー」を許さないような評価のしくみも考えたい。
・本学の担当科目は教職必修科目であり、専門科目とは異なることを今一度ふまえ、ワークやディスカッションを取り入れ能動・主体的に授業に取り組ませることが望ましいと考える。
アンケート結果では，授業の難易度と授業内容の量は，「ちょうどよい」とする回答が最も多い。また，この授業で新しい考え方や知識・技能が身についたと回答した受講生が，9割近くに達している。出席状況も95%近くがほとんど出席したと回答している。 全般的にみて、学生の受講態度は良好であると判断されるので，今後も受講生が講義に対して，できるだけ主体的に取り組めるように配慮した授業を展開したい。
・アンケート結果を受けて，来期は，授業外課題の課し方(問2・3)，受講生と教員とのコミュニケーションの活性化(問9)を中心に改善を図りたいと考えている。
・プレゼン資料が印刷して配ると，やや見にくくなるので見やすいものになるようにしたい。 ・受講人数の関係で模擬授業の一人当たりの時間が短すぎるという声があったので、納得できる時間を考えたい。
問3に対する回答があまり芳しくないので、できるだけ新しい思考を展開したり行動に結びついたりするような仕掛けを講義のなかに取り入れていきたい。

質問項目の1と5で新しい考え方や多様な考え方ができたという学生が「強く」「ややそう思う」含め90%を超えていることは大変うれしい。教科外という特質について、受講生が少なからず関心をもち、認識を深めてくれたことが改めて感じられた。授業の難易度についても、「ちょうどよい」が8割を超えているが、これは一回あたりの授業内容の量に関して9割が「ちょうどいい」と解答していることと関係していると思われる。授業の内容を絞り、時間をかけて説明したり、実際に活動したりすることが理解を深める上で有効であることがわかった。 大学の講義（15回）だけで、教科外活動についてすべての問題を知ることは不可能である。講義内容に触発され、自ら文献にあたり関心を広げていくことが重要になる。この点は、質問6，7と関係するが、講義内容と授業外での学びをどうつなげることができるかという課題であり、今後実践課題としていきたい。
前半は道徳教育の歴史、子どもの思考の発達、コールバーグ理論に基づく道徳教育の内容を説明し、後半はそれを基盤として実践的な取り組みについての理論、実際の道徳教育の様子、そして模擬授業の実践という構成で進めた。しかし、ビデオで見た実際の現場の様子はオーソドックスな内容であり、学生はコールバーグ理論をより具体的に把握するためには少々物足りない面もあると考えられる。今後、ビデオの選定を改めると共に、さらにその内容と種類を増やしていくことも学生により道徳教育について多面的に取り組むために不可欠と考える。その一方では、前述のように専門的な理論的視点を伝えるためにわかりやすい内容や伝え方を工夫していくことも求められる。
・コミュニケーションに関しては，コメントシートの返却が最終回になってしまったことで，やりとりが不十分になってしまいました。この点については，コメントシートや小レポート課題をできるだけ早めに返却するなどして，コミュニケーションを取りやすい環境づくりを心がけたいと思います。 ・配布資料などのわかりやすさに課題があるとのことなので，もう少し配布・提示の仕方を見直していきたいと思います。
道徳の歴史について知りたいという要望があったので、次回に取り入れたい。 また、H27.7に文部科学省から公表された「小・中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」をもとに解説していきたい。
学生が興味関心を持って参加し、自ら調べたいと思う資料の提供に努めます。授業担当者とのコミュニケーションがとれるよう対話を多くする授業にしたいと思います。特に終了時間がいつもぎりぎりでしたので授業の振り返りのできる時間配分に留意いたします。
授業中に質問に応える時間を作り、教員とのコミュニケーションがとれるように改善したい。
おおむね良好であるが，教育現場の新しい動きをもっと入れたい。
・授業内容および活動内容に関する説明をより丁寧にしたい ・受け身の姿勢で授業に参加する学生の自主性を引き出す工夫をしたい ・配布資料を改善したい
コメント用紙等を活用して、学生とのコミュニケーションをより活発にしていきたい。
本授業の内容は，文系になるのでしょうが，理系の学生さんにももっと興味を持ってもらうにはどうしたらいいかを考えてみたい。

授業回数が少なすぎたという回答がありますが，この授業は15回の授業ではありません。その点は，最初に説明してありますが，学生に対して誤解の無いよう，重ねて説明をする必要性があると思います。ただ，実習を含むため，特に意義を感じていた者や，授業回数が少なく設定されていることを残念に思う者もいましたので，この回答はどのような意見が反映されたものかについては分かりかねます。

アンケート結果から、改善したい項目は以下の2点。
① 問3に対する回答について、授業を受けて各自で文献やインターネットなどを活用し調査を行ったり、考えを深めることができていないことがうかがえ、次年度からは発展的な課題を与えるなど（強制はせず）、工夫したい。
② 問4に対する回答について、授業で修得したことを自らの表現で伝えることが難しいと感じていることがうかがえ、次年度からは授業内容を整理した後、グループ等で意見交換をする機会を設ける等工夫したいと考えている。

問9の教員とのコミュニケーションは・・・について、自身の中では、一回一回の授業感想に個々に応じて朱書きでコメントをしていることが、私なりの会話だと思っている。学生にとってのコミュニケーションとは？を考え、積極的にコミュニケーションが取れるようにしていきたい。

・話し方、説明の仕方について、概ね満足しているようであるが、さらなる工夫に努めたい。
・教員とのコミュニケーションに工夫することに努めたい。
・受講生が登録している科目全体における週当たりの課題等を把握できないが、自主学習を意欲づけるためにも適宜、課題を与えることも考慮したい。

・アンケートで、「授業の難易度」と「授業内容の量」が97．8%「ちょうどよい」ということであったが、問2、問3の「授業で提示された内容で、問題意識を持って自ら行動に及ばなかった学生が2～3割あったので、実践意欲につながる授業法をさらに工夫し深めていきたい。
・毎回、コメントシートで熱心に気付いたこと、学んだこと、疑問点などを述べてくれた学生が多かったにもかかわらず、「共有」すべき内容のみの説明にとどめたが、一人ひとりに対し適切なコメントをする機会を増やすことによってさらに学生の意欲を高めることができたと思う。

・受講生や科の学生の特性を鑑みて、個別指導、支援の必要性を実感し、教師自身との対話の場を持ちたい。熱意のあるコメントシートが多々あったが、「共有」すべきと判断した問題点、疑問点は次回で説明したが一人一人にコメントを返すとよかったと思われる。
・資料を用いる際、併用は必然性のあるものとの十分な説明。（昨年、「道徳教育の研究」で道徳性の発達の理論と、今回の発達段階、発達課題による支援上の留意点はともに「生きる力・豊かな人間性」を育むうえでかかせないものであり、この二つの科は連動している点、すべての児童生徒への成長を育むには、この資料に表記されていることの理解が大切である点など）

・学生間のコミュニケーション能力、ソーシャルスキル能力は、授業の第11回目ごろより演習の雰囲気がかわり一つの学級としてみれば理想的な交流がなされており確実に成果を実感できたが、自身において学生が自らの気付き、疑問、相談を熱心に綴ったにもかかわらず全体で「共有」できる内容のみ次回でとりあげ説明するにとどめた。しかし本来、一人ひとりにコメントすることによって真摯な学生との交流がさらによくなり学生自身もそれを望んでいたであろうと痛感している。
・グループで活発に討論したあと、すべてのグループに発表の場を設ける機会をふやしたい。

自主学習として製作にかかる作業量が多いため、思考力の育成や文献購読までには至らず、改善の余地があると考える。ただ、学習時間も1時間以上の学生が大部分であり、授業の難易度も「ちょうどいい」とする回答が大部分であることから、これ以上学生の負担をかけることは難しいように思う。授業内で工夫を試みたい。

おおむね良い回答であったので，このまま続けていきたい。